

図 - 2.5.1 造成アバットメント工適用による掘削範囲低減状況（左岸部）

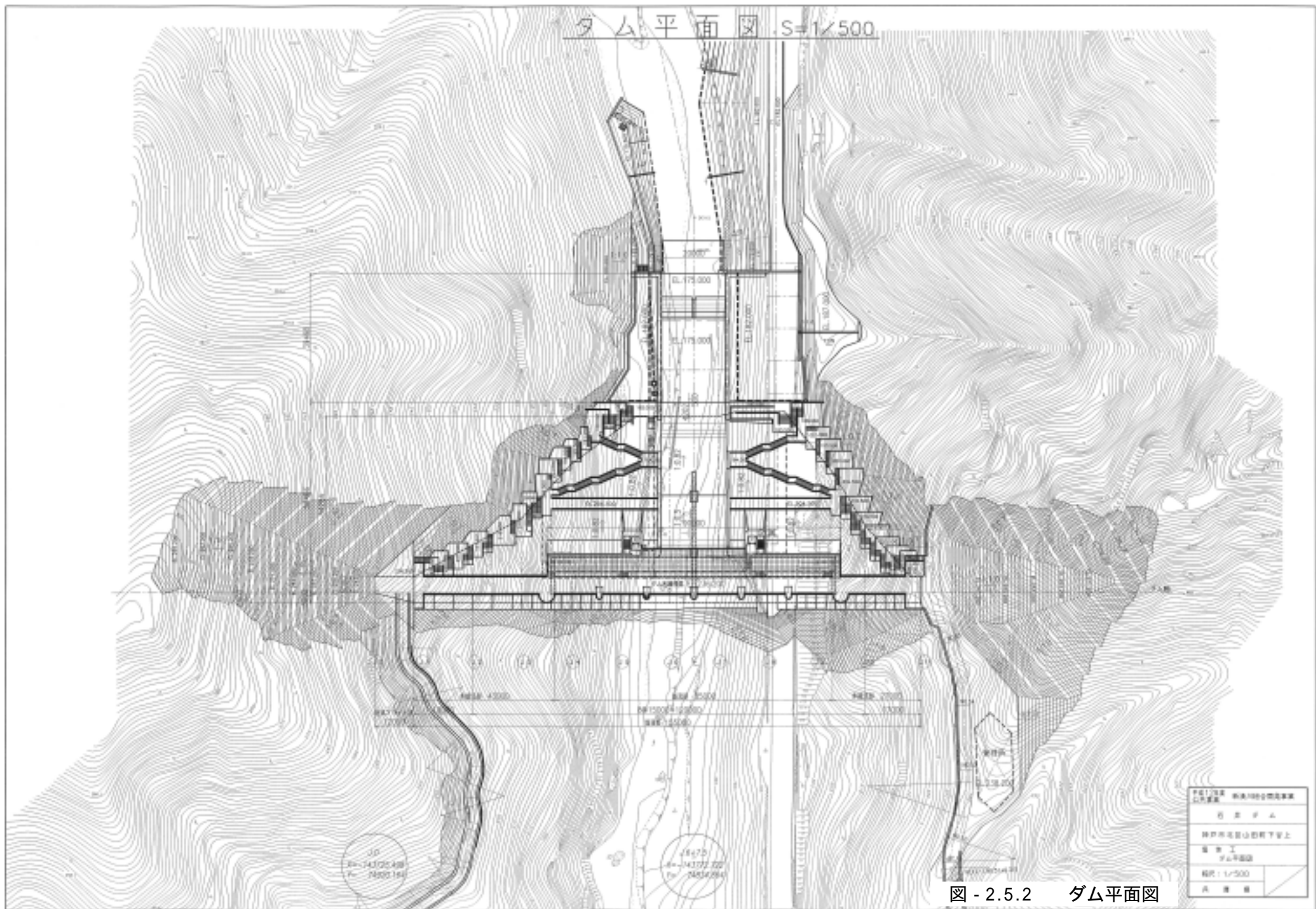


図 - 2.5.2 ダム平面図

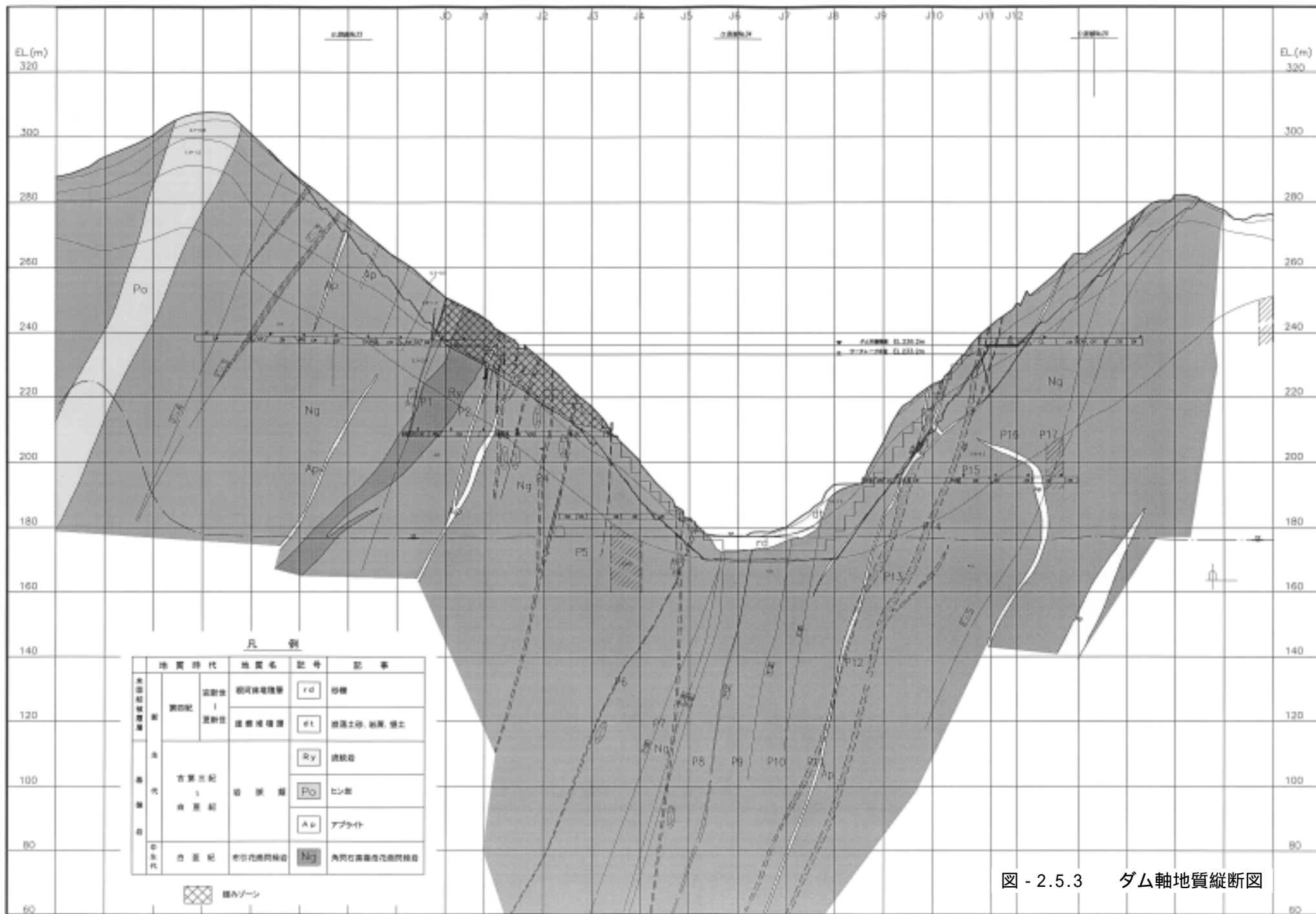


図 - 2.5.3 ダム軸地質縦断面図

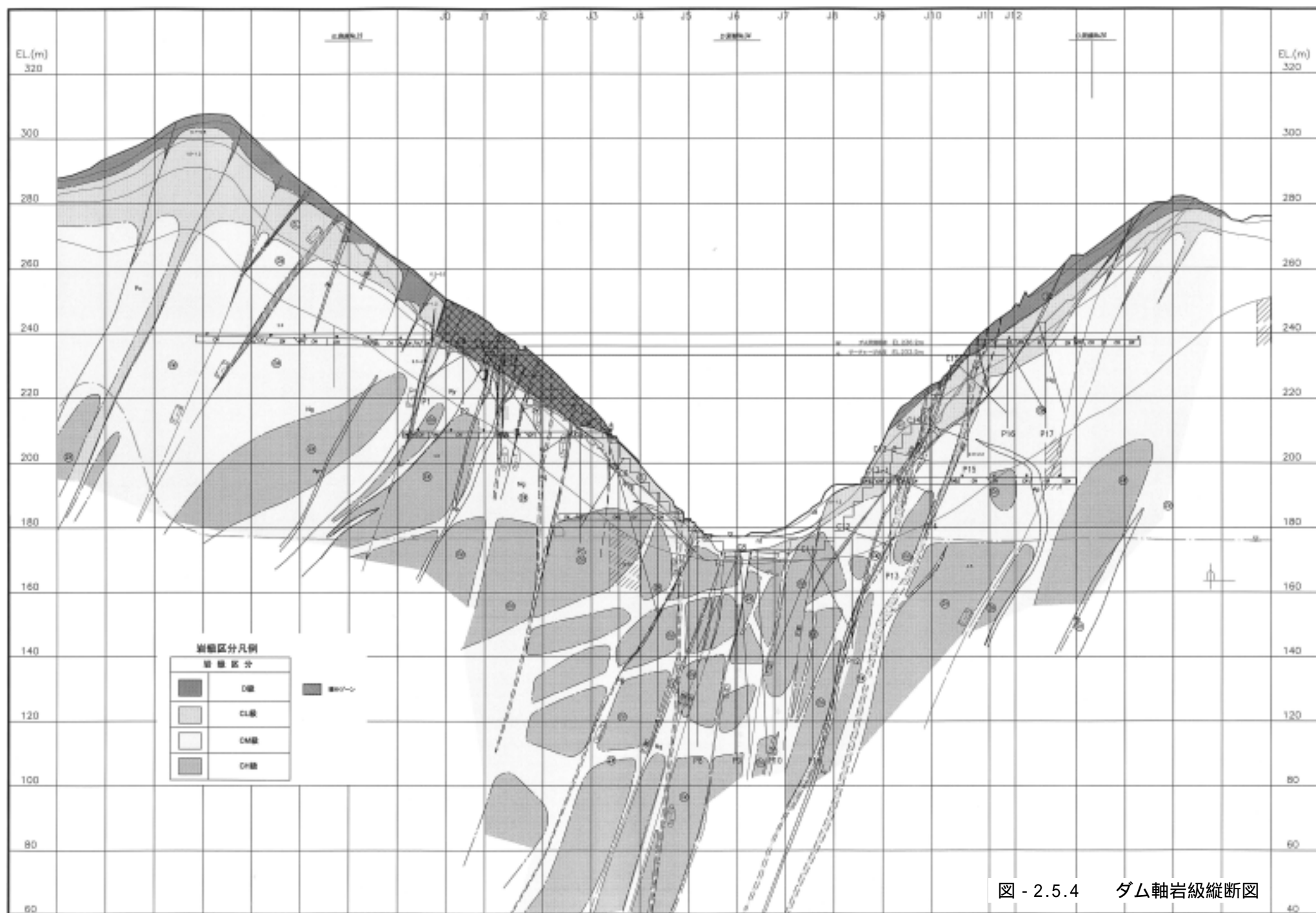


図 - 2.5.4 ダム軸岩級縦断面図

造成アバット部横継目構造図 S=1/100

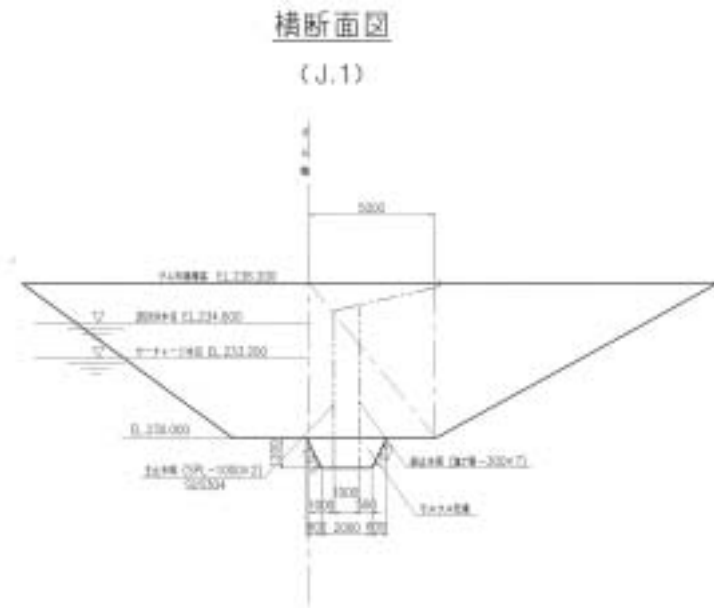
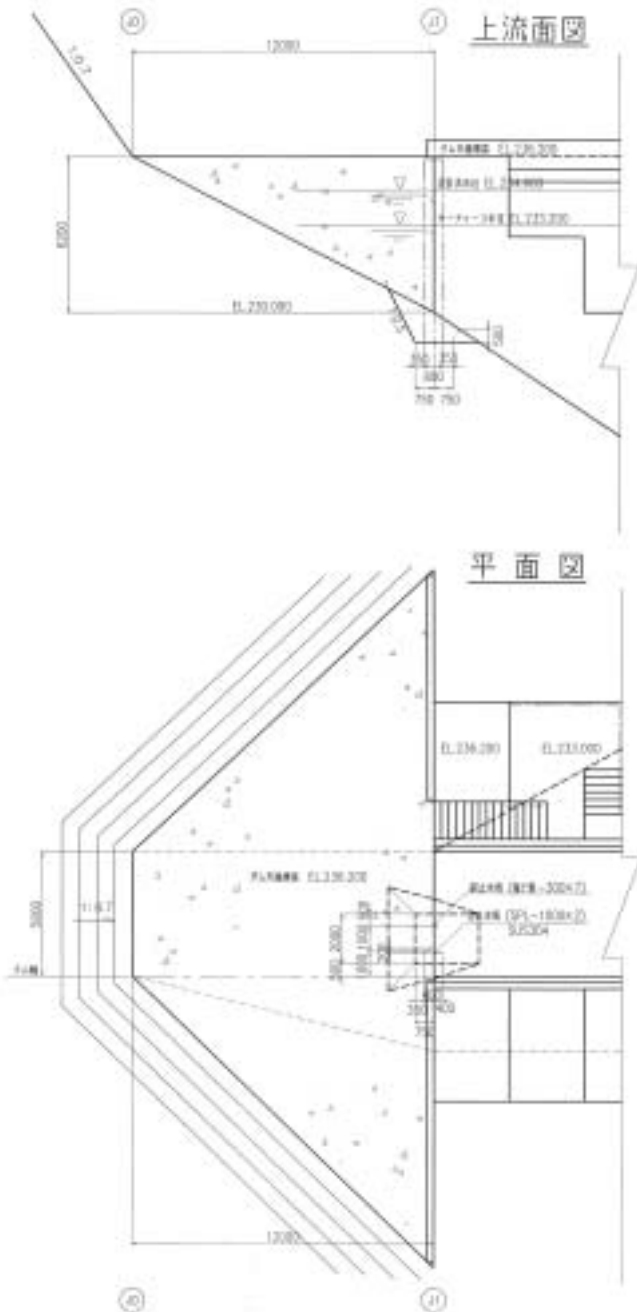


図 - 2.5.5 造成アバット部構造図

作成	設計	監理	検査
作成	設計	監理	検査
作成	設計	監理	検査
作成	設計	監理	検査
作成	設計	監理	検査

2.6 椀川ダム

諸 元

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 1) 事業主体 | 香川県 |
| 2) 所在地 | 香川県香川郡塩江町安原上東 |
| 3) 水系 | 香東川水系椀川 |
| 4) 目的 | 洪水調節・不特定・上水道・湯水対策 |
| 5) 堤高 | 88.5m |
| 6) 堤頂長 | 265.5m |
| 7) 堤体積 | 414,000m ³ |
| 8) 上下流面勾配 | 上流面 鉛直 ・ 下流面 1:0.77 |

造成アバットメント

ダムサイトの天端付近より上位の左岸側には緩み岩盤（CLL級）が、右岸側には地すべり土塊が厚く分布し、堅岩の上昇は極めて鈍い。地すべりは岩屑からなる未固結堆積物で、CLL級は緩み・風化が進み、割れ目に流入粘土を挟在する風化岩である。

ダム基礎岩盤はこのような未固結堆積物や風化の及んだ岩盤を避け、比較的新鮮な岩盤（当該地点ではCLH級以上）に着岩させるのが原則である。しかし、当該地点で堅岩まで着岩させるとすると単に掘削量が増加するだけでなく、地すべりや緩み岩盤の安定性を大きく損なう危険性を有しており、掘削線を山側に追い込むことはできる限り避けるべきである。そこで本ダムでは、天端標高以上に分布する左岸側の緩み岩盤、右岸側の地すべりに対しては、堤体端部に造成アバットメントを採用し、ダム掘削による不安定斜面への影響の最小化を図っている。

造成アバットメントの概要

	左 岸	右 岸
型 式	端部置換え型	端部置換え型
最 大 高 さ	8.5m	7.5m
置 換 え 体 積	590m ³	685m ³
左 右 岸 合 計	1,275m ³	
備 考		
基 礎 の 岩 質	中生代白亜紀・和泉層群の砂岩及び頁岩の互層	
基 礎 の 岩 級	CLH級以上	
掘削低減量（低減率）	10,970m ³ （17.6%）	5,550m ³ （72.4%）
法面積低減量（低減率）	1,240m ³ （33.7%）	600m ³ （79.3%）

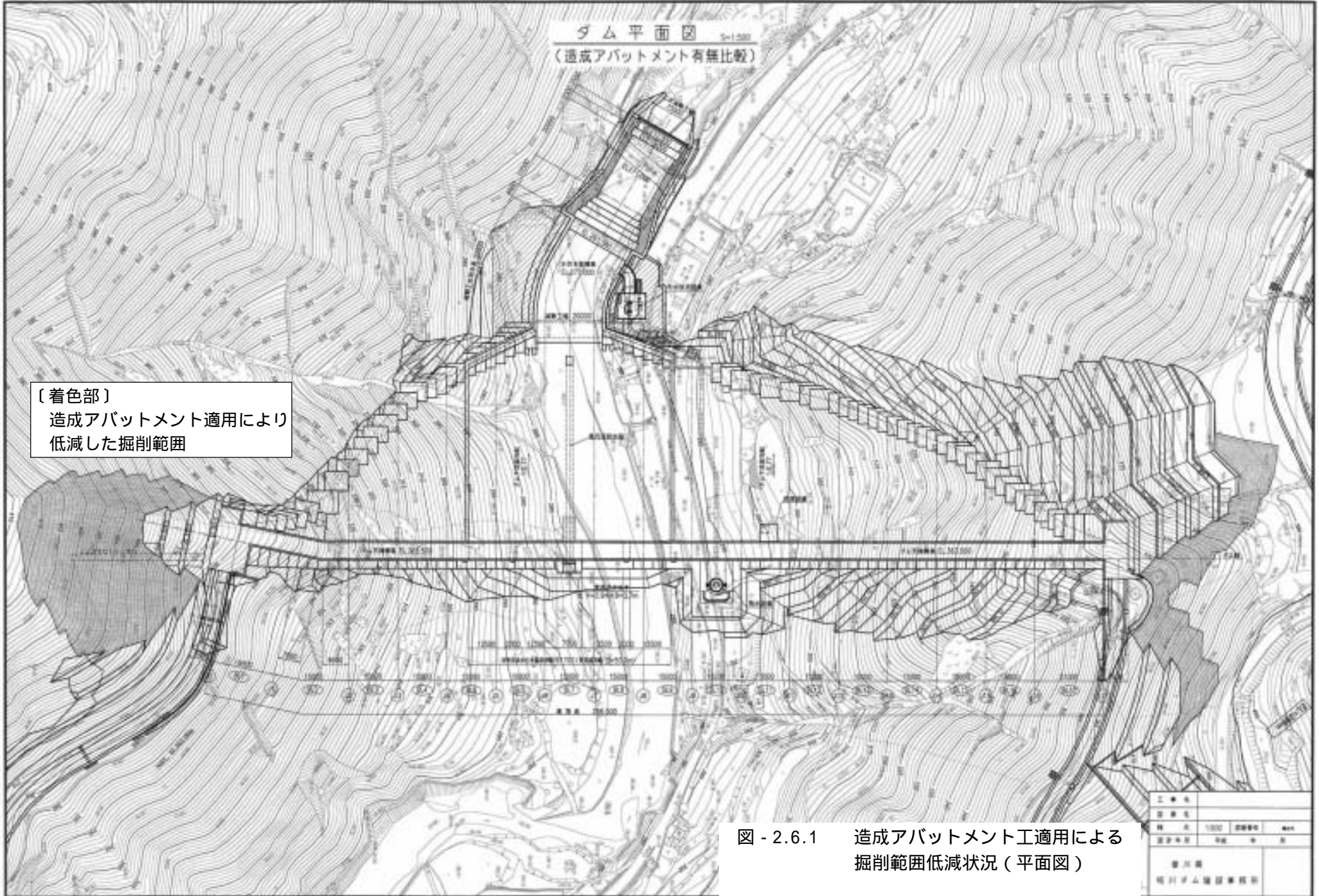


図 - 2.6.1 造成アバットメント工適用による掘削範囲低減状況 (平面図)

ダム上流面図 3-1/500
 (造成アバットメント有無比較)

〔着色部〕
 造成アバットメント適用により
 低減した掘削範囲

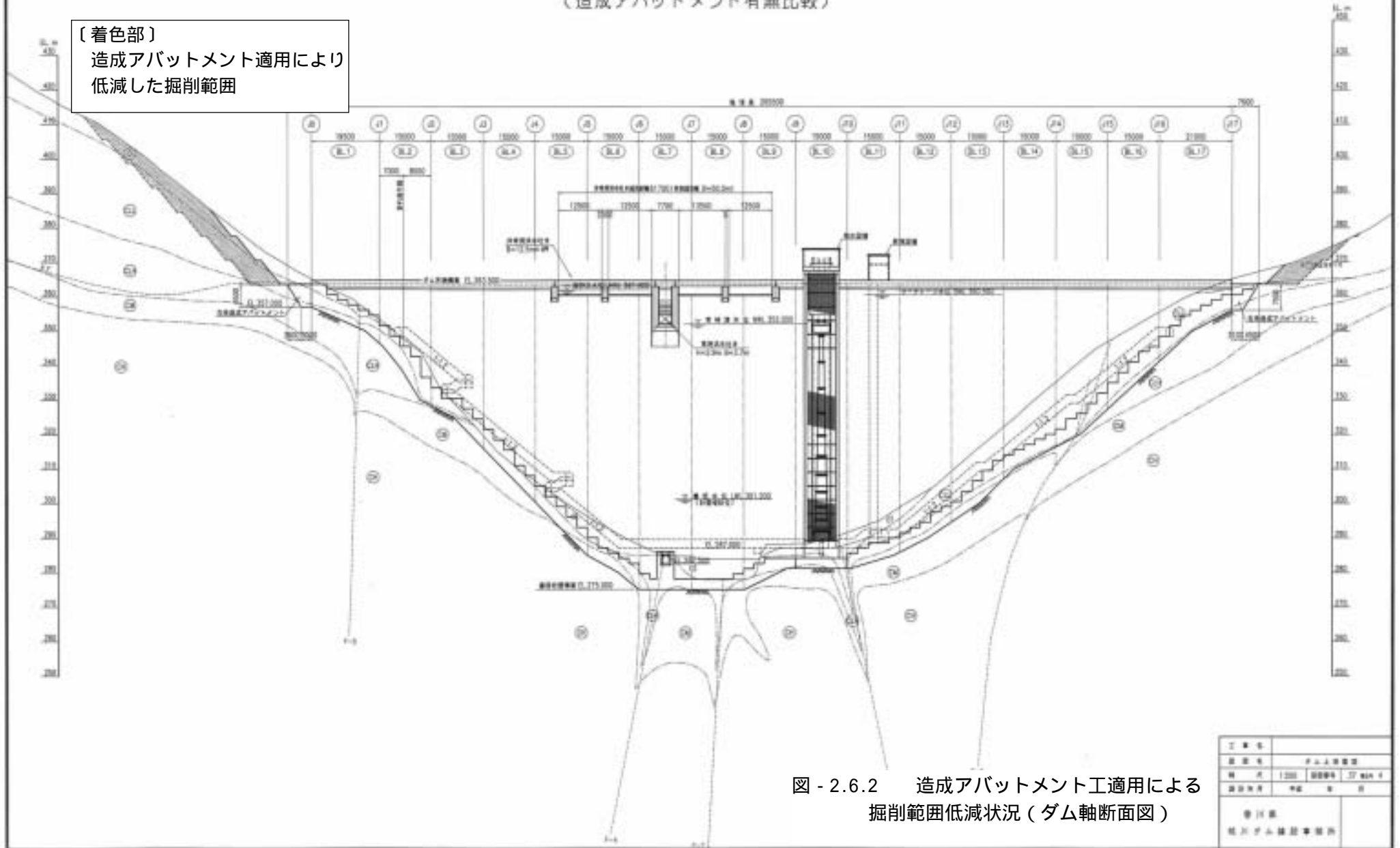


図 - 2.6.2 造成アバットメント工適用による掘削範囲低減状況 (ダム軸断面図)

工 業 名	ダム上流面図
図 号	3-1/500
縮 尺	1/500
設 計 者	建設省 建設省
設 計 日	昭和 年 月 日
製 図 者	
製 図 日	